

平成 30 年度 事後評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	大阪河内長野線道路整備事業（大野天野線区間）														
担当部署	都市整備部 交通道路室 道路整備課 建設グループ（連絡先 06-6944-9276）														
事業箇所	河内長野市上原町～河内長野市小山田町														
事業目的及び事業内容	<p>【事業目的】 都市計画道路大阪河内長野線は大阪府松原市天美北4丁目地内の一級河川大和川交差点を起点とし、堺市北区、堺市美原区、堺市東区、大阪狭山市などを経由して、河内長野市上原町地内の一般国道170号との交差点を終点とする延長約21.3kmの主要幹線道路である。</p> <p>大阪河内長野線の一部である本路線は、河内長野市小山田町地内の緑ヶ丘町から、一般国道170号へ流入する車両により、市道貴望ヶ丘小山田線と市道野作赤峰下里線の交差点である赤峰交差点において、交通混雑が発生していた。</p> <p>また、河内長野市小山田町地内に消防防災拠点施設があり、本路線の終点である上原町の交差点から防災拠点までのアクセスは、渋滞ポイントである赤峰交差点を通過しなければならない状況にあった。</p> <p>大阪河内長野線の一部である本路線は、このような状況を改善するため、上原町の交差点から市道貴望ヶ丘小山田線までの区間を整備したものの。</p> <p>【事業内容】 延長：L=0.26km 幅員：W=25m 4車線（暫定2車線）</p>														
関連事業とその現状	—														
社会経済情勢の変化	<p>【周辺道路の状況】</p> <table border="1"> <tr> <td><赤峰交差点></td> <td>整備前</td> <td>整備後</td> </tr> <tr> <td>対象年次</td> <td>H23</td> <td>H28</td> </tr> <tr> <td>旅行速度(km/h) (緑ヶ丘町⇒R170)</td> <td>3.7</td> <td>5.1</td> </tr> <tr> <td>旅行速度(km/h) (R170⇒緑ヶ丘町)</td> <td>12.2</td> <td>16.5</td> </tr> </table>			<赤峰交差点>	整備前	整備後	対象年次	H23	H28	旅行速度(km/h) (緑ヶ丘町⇒R170)	3.7	5.1	旅行速度(km/h) (R170⇒緑ヶ丘町)	12.2	16.5
<赤峰交差点>	整備前	整備後													
対象年次	H23	H28													
旅行速度(km/h) (緑ヶ丘町⇒R170)	3.7	5.1													
旅行速度(km/h) (R170⇒緑ヶ丘町)	12.2	16.5													
事業実施による自然環境の変化	山岳トンネルを施工した区間に関して、開削やBOXではなく、トンネル工法を採用することで、自然環境への影響の極小化を図っている。														
最終評価時の意見具申（付帯意見）と府の対応	<p>【最終評価時の意見】 本事業は、都市計画道路大阪河内長野線の一部区間(260m)において、地域の渋滞解消や国道170号から河内長野市の消防防災拠点へのアクセスを目的として道路整備を行うものである。当初は平成19年度に完成予定であったが、用地買収に時間を要しており、事業採択後10年を経過し継続中である。現在、用地買収は17%、工事は39%の進捗であり、完成予定は平成23年度との説明を受けた。事業期間が延びていることは問題であるが、確実に平成23年度に完成できる目途について今後のスケジュールを確認したところであり、事業予定地の地権者の理解のもと事業を予定通り進めることを期待したい。事業の必要性は認められるため、事業の継続は妥当である。</p> <p>【府の対応】 事業継続</p>														

2 事業効果の分析等

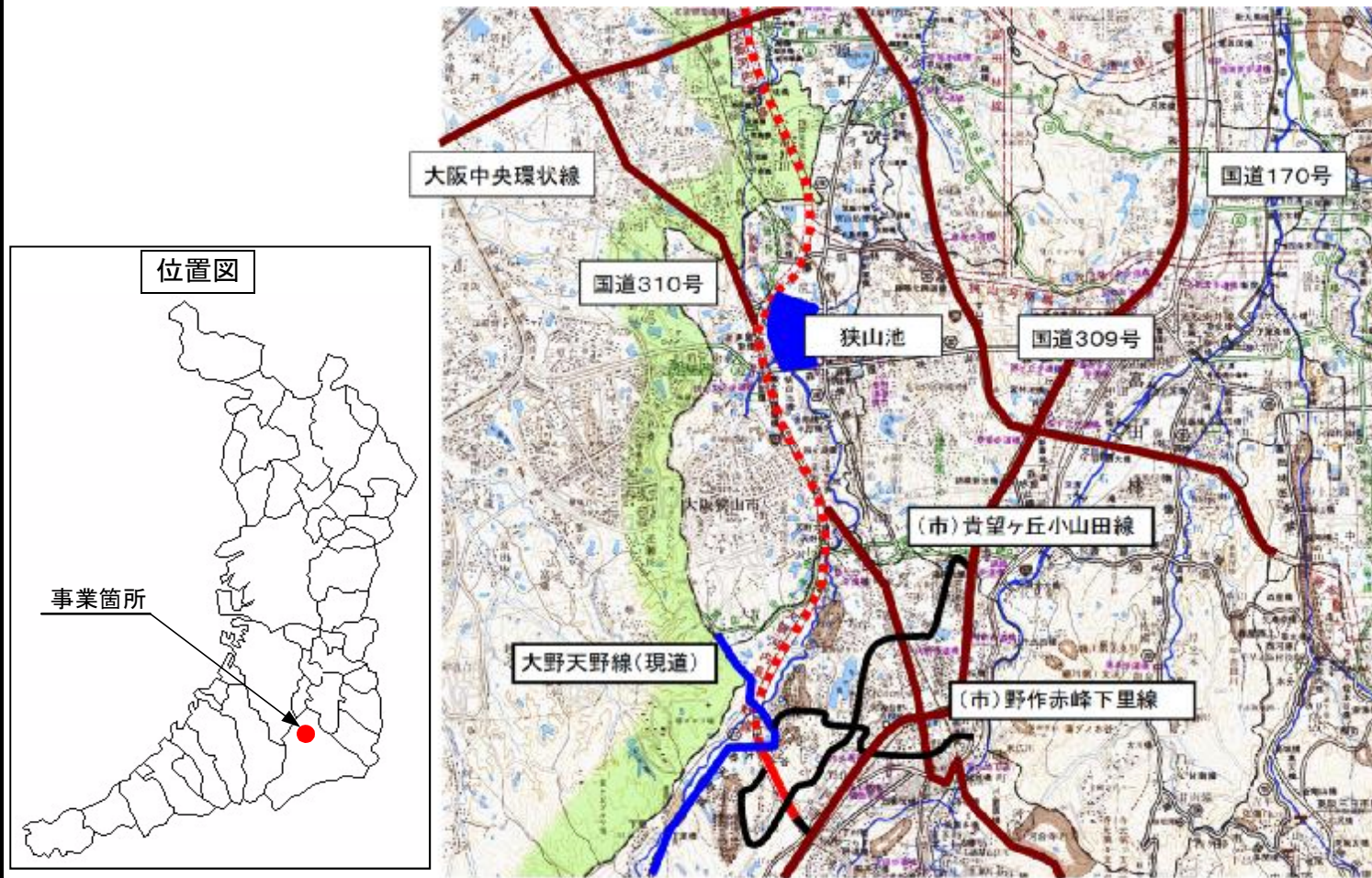
	最終評価時点 H21	事後評価時点 H30	変動要因の分析
事業費	約16億円 [国:8.8億円、府:7.2億円]	約19億円 [国:10.5億円、府:8.5億円]	工法を変更したため。
経過 ①事業期間 ②採択年度 ③着工年度 ④完成年度	① 12年 ②平成12年度 ③平成12年度 ④平成23年度	① 14年 ②平成12年度 ③平成12年度 ④平成25年度	用地交渉に時間を要したため。
定量的効果 (費用便益分析等)	<p>【効果項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走行時間短縮便益 ・走行経費減少便益 ・交通事故減少便益 <p>【分析結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B/C=1.5 ・B=24.20億円 (内訳は上記の通り) ・C=16.08億円 (内訳) 建設費 15.77億円 維持管理費 0.31億円 <p>【算出方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省「費用便益分析マニュアル(平成20年11月)」により算出 ・H17交通センサスペースのH42将来交通推計値により算出。 <p>【受益者】 地区住民、道路利用者等。</p>	<p>【効果項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走行時間短縮便益 ・走行経費減少便益 ・交通事故減少便益 <p>【分析結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B/C=1.1 ・B=31.56億円 (内訳は上記の通り) ・C=28.65億円 (内訳) 建設費 28.32億円 維持管理費 0.33億円 <p>【算出方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省「費用便益分析マニュアル(平成20年11月)」により算出 ・H17交通センサスペースのH42将来交通推計値により算出。 <p>【受益者】 地区住民、道路利用者等。</p>	完成年度の遅れ、事業費の増大により、費用便益比が低下した。
事業効果の定性的分析 (安心・安全、活力、快適性等の有効性)	<p>【効果項目】 (安全・安心)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急輸送ネットワークの確保 (快適性) ・車両等の走行性の向上による快適性、安全性の向上 (活力) ・地域間交流、連携の強化 ・物流効率化の支援 <p>【受益者】 地区住民、道路利用者。</p>	<p>【効果項目】 (安全・安心)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急輸送ネットワークの確保 (快適性) ・車両等の走行性の向上による快適性、安全性の向上 (活力) ・地域間交流、連携の強化 ・物流効率化の支援 <p>【受益者】 地区住民、道路利用者。</p>	再評価時に見込んだ効果を達成できている。
その他特記事項	—		

3 評価結果と今後の同種事業に対する改善措置等

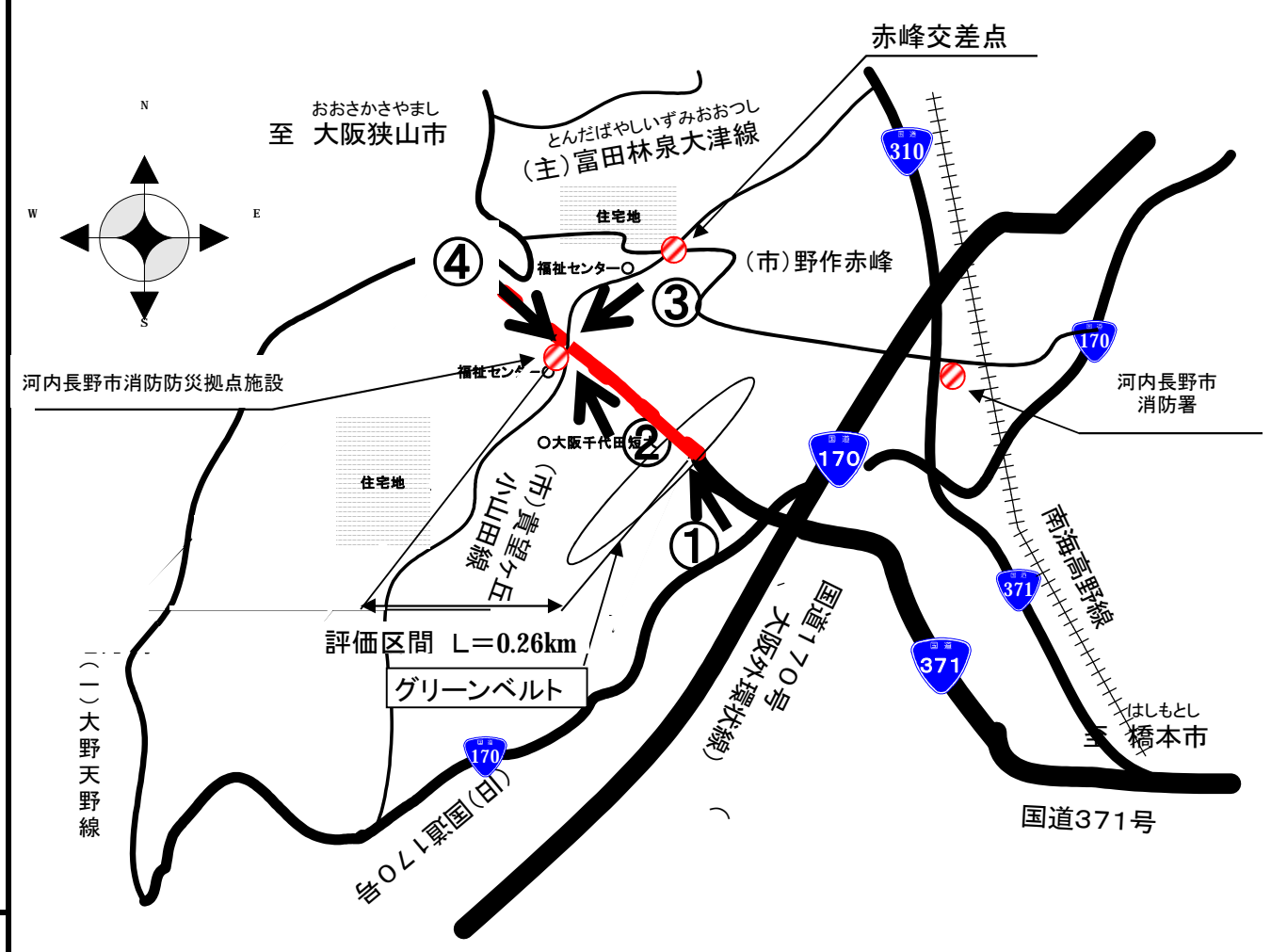
評価結果 (事業効果の発現 状況等)	本事業区間を整備したことにより、渋滞ポイントである赤峰交差点を経由せず、国道170号から消防防災拠点への直接アクセスが可能となったことから、防災性が向上し、また周辺地域の交通負荷が軽減し、生活環境の改善が図られた。
今後の同種事業に 対する改善措置等	—

平成30年度 事後評価 (一般府道大野天野線(大阪河内長野線)道路改良事業)

事業箇所図



平面図



現況写真



①起点部から終点部



②標準断面



③消防防災拠点施設



④終点部から起点部

標準断面図

